



フランス語フランス文学コース



大学生活で肝心なのは、何かを身につけたといえること、何かに出会ったといえることです。フランス語という武器を身につけること、未知の文化との出会いを果たすこと、それを可能にするのがフランス語フランス文学コース。一人でも多くの方々に来てほしいという気持ちをこめて、コースの概要を紹介します。自由で知的でアットホームだけどマイペースな仏文に、ぜひ関心を持ってほしい！

◆こんな人のためのコースです。

- ☆「フランス語圏の文学・文化に関心のある人」はもちろんのこと、
- ☆「せっかくフランス語を選んだので、ちゃんと使いこなせるようになりたい」という人、
- ☆「文学、美術、映画、音楽、思想、いろいろなものに興味があるけど一つを選べない」という人、あるいは逆に、
- ☆「何をやりたいか決まっていないけど、何でもできる、ちょうどいい感じの居場所がほしい」人、そういう人たちにもぜひ仏文を薦めます。
- ☆フランス語選択でない人もやる気があればOKです。まずはコース室にご相談ください。
- ☆転部試験もあるので、文化構想学部の人に関心があればぜひ連絡してください。



◆何を学ぶ場所か

当然ながら、フランス語、フランス文学、フランス文化を学ぶ場所です。もちろん文学は一つの柱ですが、フランス語圏に関係のあることなら何をやってもいいコースです。

どんな分野に興味がある人も、関心を深めていくには具体的な一つの地域を選び、その地域の視点から考えていくのはとても大切なこと。フランス語圏の豊かな文化は格好の足場を与えてくれることでしょう。

フランス語力を高めることを一番に考える人の期待にも、もちろん十分お応えします。

◆カリキュラムの特色

○まずは基礎をしっかり

全員が履修する必修科目は、2年次の週4コマと卒論演習だけで、あとはかなり自由に選べる仕組みです。必修演習3コマ（通年6コマ）は、それぞれ「言語」「文学」「文化（現在は主として美術と映画）」に当てられていて、これに週1コマ（通年2コマ）の「フランス文学史」が加わりますが、1年間でフランス文化全体の基礎を無理なくしっかり身につけられるでしょう。

(⇒「カリキュラム編成」)



○「言語」「文学」「文化」：学びたいポイントに合わせたカリキュラムを組める

3年生以上の履修は自由度が高いため、それぞれの関心に合わせてカリキュラムを組むことができます。

仏文の特色の一つは、選択外国語科目のかなりの部分をコースの選択必修科目として履修できること。これは語学力養成に力を入れたい人にとって有利というだけでなく、「フランス語を読む」や「フランス文化を知る」のなかには担当教員の専門を活かした、文学・文化の授業としてレベルの高いものも多く、学生各自の関心に沿った時間割が作りやすくなっています。(⇒「カリキュラム編成」「選択外国語科目」)



2021年度からは、「フランス語を読む」に「絵本・児童文学」が、「フランス文化を知る」に「BD・マンガ」が新登場し、カリキュラムの幅がさらに広がっています。

◆卒業論文のテーマ

カリキュラムを反映して卒論のテーマも多様ですが、文学関係が3~4割、そのほか映画や美術、思想、社会問題や歴史系のテーマがこれに次ぐ、といった感じでしょうか。ホームページで題目を公開しているのでぜひご覧ください。

◆就職・大学院進学

就職先は出版関係やマスコミから一般企業や官公庁までさまざまです。もちろん伝統的に、仏文は文学者を生み出す土壌でもありましたが、最近はコースごとの就職の特色は、以前ほどはっきりしていないかもしれません。もちろんさらに研究を深めるために、大学院に進む学生もコンスタントに存在しています。

◆留学について

平均すると、仏文生の5人に1人くらいが留学を経験しています。最近2年間はコロナ禍のために留学がしにくくなっていましたが、これからは回復していくでしょう。仏文なら留学の情報も集めやすいし、留学しやすい環境なのは間違いありません。フランス語圏への留学なら留学先で取った科目の単位互換は簡単なので、1年間留学しても4年での卒業は可能です(ただし留学する学年によっては、就職活動の問題が出てくる可能性があります)。



フランス語圏の協定校への留学が普通ですが、なぜか最近、英語圏を中心として、フランス語地域以外に留学するケースもふえてきています。英語はもうできるのだから日本ではなく現地で体験し、フランス語は日本で勉強するという選択も、それはそれで悪くないかもしれません。

◆教員紹介

専任教員はそれぞれ、中世、17・18世紀、19世紀、20世紀を専門にしている、バランスのいい配置です(⇒「専任教員紹介」)。さらに文化構想学部の先生も仏文コースの授業に協力してくださっていて、カリキュラムは厚みのあるものになっています(⇒「文化構想学部所属の先生方」)。詳しい教員紹介についても、ぜひホームページを見てください。

◆コース室/LA/火曜のランチ会

コース室は39号館3階2319です。フランス語図書もいろいろ置いてあるし、会議や授業で使っていなければ学生も自由に入れるので、1年生のみなさんもぜひ気軽に話をしに来てください。講師の先生か大学院生がお相手します。

それから知っておいてほしいのがLA(ラーニング・アシスタント)の制度。ウィークデーの午後はコース室の向かいの部屋で大学院生が待っていて、フランス語に関する質問に何でも答えてくれるというサービスです。39号館は入ったことがなくて敷居が高いなどと思わずに、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

さらに通常の状態ならば、火曜の昼休みは教員と学生がお昼を持ち寄ってランチ会をやっていました。1年生でも顔を出してくれる人もいるし、コロナ禍が去って再開できたときには、こちらにもぜひ来てみてください。教員と接触しやすいのは、小さめのコースのメリットの一つです。

◆ホームページと連絡先

仏文に関心を持ってくれた人は、ぜひホームページも見てください。イベントの案内や詳しい教員紹介、過去の卒論のタイトルなどのほか、毎年3人の卒業生に登場してもらった「卒業生インタビュー」も掲載されています。質問があれば、いつでも気軽にコースのアドレスまで！(⇒「専任教員紹介」の下にある情報を見てください)

文学部

フランス語フランス文学コース 専任教員紹介

2022 年度

教員名	専攻分野	研究内容
川瀬 武夫 2303	19 世紀フランス文学 近現代詩	①フランス文学における「近代」の成立と発展をフランス大革命以来の政治的・社会的激動の関連において研究する。 ②ボードレール、マラルメ、ランボー等、主として象徴主義の系譜に属するフランス詩を多面的に研究する。
鈴木 雅雄 2309	20 世紀フランス 文学・芸術	専門はシュルレアリスム研究。今後は特に、狭義の美術だけでなく、マンガや絵本、ポスターなども考慮に入れつつ、視覚文化論的な広い文脈でシュルレアリスムの造形活動を位置づけることを課題にしていくつもりです。
瀬戸 直彦 2307	中世詩 中世文学 文献学	中世フランス抒情詩の解釈と校訂を研究しています。ラテン語から、現代のフランス語にいたるあいだにあるオック語（南フランス語）やオイル語（北フランス語）で記されたものには何でも興味があります。
デュスッド, オディール 2302	古典文学 レトリック	17～18 世紀フランス文学研究（小説、演劇、詩）。フランコフォニーの小説を含め、フランス語で表現している現代の小説家についても研究しています。
後藤 渡（講師） 1504	20 世紀フランス文学	専門は 20 世紀フランス文学、特にジョルジュ・ペレックです。メディアにおける作家の制作活動や当時の芸術運動（例えば具象音楽）と作家のかかわりにも興味があります。

☆ 教員名の下に数字は研究室番号

☆ コース室：39 号館 3 階 2319(今年度の開室時間は未定です)

☆コースのメールアドレス：salut@list.waseda.jp ☆ HP：http://flas.waseda.jp/french/

☆Twitter：早稲田仏文 officiel (@WFutsubun)

フランス文化を専門となさる

文化構想学部所属の先生方

教員名	専攻分野	研究内容	研究テーマ
北村 陽子 (文芸・ジャーナリズム論系) 2301	美術批評史 近代絵画	19世紀の絵画とその批評。テキストとイメージの問題。諷刺画、本の挿画、写真、映画など。	美術批評、映画
酒井 智宏 (複合文化論系) 1502	理論言語学 言語哲学	統語論、意味論、語用論の研究のほか、意味の成立基盤に関する哲学的考察、理論言語学の諸概念の科学哲学的検討を行っています。	文脈主義、意味の外在主義、固有名論、トートロジー論
藤本 一勇 (表象・メディア論系) 2311	現代思想	20世紀フランス思想、特に実存主義以降の思想。「脱構築」的思考を現象学・存在論や政治・社会・文化との関連で研究。	デリダ、レヴィナス、メルロ＝ポンティ、サルトル、ブランショ等

2022 年度フランス語フランス文学コース カリキュラム編成

	必修		選択			
	春期	秋期	春期/秋期			
2 年次	6	6	10	4	8	
	演習1 演習2 演習3	演習4 演習5 演習6				選択講義Ⅱ類 フランス語学概論 フランス語史 フランス文学の現在 フランスの映画・映像論 フランス比較文化論 選択外国語 フランス語を読む 1~14 フランス語で表現する 1~12 フランス文化を知る 1~16
	2	2				
	フランス文学史1	フランス文学史2				
3 年次			10	4		
						選択講義Ⅰ類 フランス中世・ルネサンス 文学 フランス詩 フランス小説 フランス思想
4 年次	2	2	10	4	8	
	演習(卒論)	演習(卒論)				
小計	10	10	10	4	8	
計	42					

◇必修演習科目

科目名	配当年次	学期	曜日・時限	担当者
フランス語フランス文学演習1 (フランス語1)	2年以上	春期	木1	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習2 (フランス文学1)	2年以上	春期	水2	後藤 渡
フランス語フランス文学演習3 (フランス文化1)	2年以上	春期	金4	鈴木 雅雄
フランス語フランス文学演習4 (フランス語2)	2年以上	秋期	木1	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習5 (フランス文学2)	2年以上	秋期	水2	川瀬 武夫
フランス語フランス文学演習6 (フランス文化2)	2年以上	秋期	金4	瀬戸 直彦
フランス語フランス文学演習7 (フランス文学3)	3年以上	春期	火5	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習8 (フランス文学5)	3年以上	春期	木3	瀬戸 直彦
フランス語フランス文学演習10 (フランス語学3)	3年以上	春期	火3	酒井 智宏
フランス語フランス文学演習11 (フランス文化3)	3年以上	春期	月4	鈴木 雅雄
フランス語フランス文学演習12 (フランス文学4)	3年以上	秋期	火5	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習13 (フランス文学6)	3年以上	秋期	金3	川瀬 武夫
フランス語フランス文学演習15 (フランス語学4)	3年以上	秋期	火3	酒井 智宏
フランス語フランス文学演習16 (フランス文化4)	3年以上	秋期	月4	鈴木 雅雄

◇講義科目

科目名	配当年次	学期	曜日・時限	担当者
<必修講義科目>				
フランス文学史1	2年以上	春期	OD	瀬戸直彦/O. デュスッド/川瀬武夫
フランス文学史2	2年以上	秋期	OD	後藤渡/鈴木雅雄/藤本一勇
<選択必修講義科目>				
選択講義Ⅰ類				
フランス詩	3年以上	春期	OD	川瀬 武夫
フランス思想	3年以上	秋期	月3	藤本 一勇
フランス小説	3年以上	春期	月5	後藤 渡
フランス中世・ルネサンス文学	3年以上	秋期	金5	瀬戸 直彦
選択講義Ⅱ類				
フランス語学概論	2年以上	春期	木3	酒井 智宏
フランス文学の現在	2年以上	春期	木2	堀 千晶
フランス比較文化論	2年以上	春期	OD	川瀬武夫/瀬戸直彦/鈴木雅雄
フランス語史	2年以上	春期	金5	瀬戸 直彦
フランスの映画・映像論	2年以上	秋期	OD	堀 千晶
フランスの歴史と社会(*)	1年以上	秋期	OD	後藤 渡
フランス表象文化論(*)	1年以上	秋期	木4	鈴木 雅雄

◇選択外国語科目〈春期・秋期〉

〈選択必修外国語科目〉

フランス語を読む			フランス語で表現する		
1・6 (文学1)	水5	福山	1A・6A (会話初級)	木4	クーショ
2・7 (哲学)	火6	立花	1B・6B (会話初級)	水5	ヴィエル
3・8 (芸術・文化)	火3	中島	2A・7A (会話中級)	木3	ヴァンサンヤン
4・9 (現代文明)	金3	梶田	2B・7B (会話中級)	木5	クーショ
5・10 (高度な読解力の養成)	火4	小出石	3A・8A (作文初級)	火5	小倉
11・12 (文学2)	金3	福山	3B・8B (作文初級)	金4	中野
13・14 (絵本・児童文学)	木6	村上	4・9 (作文中級)	水4	デュスッド
フランス文化を知る			5・10 (会話・作文総合)	木5	デュスッド
1・6 (時事フランス語)	水5	佐々木	11・12 (メディアコミュニケーション)	OD	明石
2・7 (フランスを旅する)	月5	家山			
3・8 (映画・映像)	水5	キヨタ			
4・9 (美術・音楽)	OD	バルナル=ミルティル			
5・10 (歴史・社会)	月2	中嶋			
11・12 (ファッション・料理)	OD/水4	ヴァリエース			
13・14 (演劇・ミュージカル)	火5	片山			
15・16 (BD・マンガ)	金5	原			

〈それ以外の選択外国語科目〉

フランス語の資格をめざす			フランス語力を強化する		
1A・3A (初級)	OD	家山	1・5 (留学準備, 語彙)	OD	明石
1B・3B (初級)	OD	小幡	2・4 (文法)	OD	小幡
2・4 (中級)	木2	ヴァンサンヤン	3・6 (発音, 聞き取り)	火3	小出石

第三外国語としてのフランス語 1A・2A	水6	福山
第三外国語としてのフランス語 1B・2B	火5	立花
速習フランス語 A・B	月5/金5	松村

補足

- ・各科目の内容は Web シラバスを参照してください。
- ・登録方法および登録上の注意については「科目登録の手引き」を熟読してください。

(*) 「フランスの歴史と社会」と「フランス表象文化論」(前頁下)は、2012 年度以降の入学者に関しては、コース 専門卒業要件単位数に含まれなくなりました。ご注意ください。

文学部 フランス語フランス文学コース

2022 年度 時間割

時間/曜日	月	火	水	木	金	土
1				演習1 デュスト	演習4	
2	文化を知る5 中嶋		演習2 後藤	演習5 川瀬	フランス文学の現在 堀 資格をめざす2 資格をめざす4 ヴァンシテヤン	
3	フランス思想 藤本	演習10 酒井 仏語を読む3 中嶋 強化する3 小出石	演習15 仏語を読む8 強化する6	演習8 瀬戸 フランス語学概論 酒井 表現する2A ヴァンシテヤン	演習13 川瀬 仏語を読む4 藤田 表現する7A 福山	
4	演習11 鈴木	演習16 小出石	演習(卒論) 川瀬、鈴木、瀬戸、デュスト、後藤 仏語を読む5 小出石	文化を知る12 ヴァリエース 表現する1A クーンヨ 表現する4 デュスト	フランス表象文化論 鈴木 表現する6A 表現する9	演習3 鈴木 表現する3B 中野 表現する8B
5	フランス小説 後藤 文化を知る2 家山 速習仏語A 松村	演習7 デュスト 文化を知る7 小倉 速習仏語B 片山	演習12 表現する3A 文化を知る13 三外としての仏語1B 立花	表現する6B ワイエル 仏語を読む1 福山 文化を知る1 佐々木 文化を知る3 キヨタ	表現する7B クーンヨ 表現する10 デュスト 文化を知る6 文化を知る8	フランス語史 瀬戸 フランス中世・ルネサンス文学 原 速習仏語A 松村 速習仏語B
6		仏語を読む2 立花	仏語を読む7 立花	三外としての仏語1A 福山	三外としての仏語2A 村上	

フルオンデマンド授業	
2年次必修科目	
フランス文学史1 瀬戸・デュスト・川瀬	フランス文学史2 後藤・鈴木・藤本
選択必修科目	
フランス詩 川瀬	フランスの映画・映像論 堀
フランス比較文化論 川瀬、瀬戸、鈴木	フランスの歴史と社会 後藤
フランス語で表現する	
表現する11 明石	表現する12
フランス文化を知る	
文化を知る4 ベルナル＝ミルティール	文化を知る9
文化を知る11 ヴァリエース	
フランス語の資格をめざす	
資格をめざす1A 家山	資格をめざす3A
資格をめざす1B 小幡	資格をめざす3B
フランス語力を強化する	
強化する1 明石	強化する5
強化する2 小幡	強化する4

表の見方

(春期)	(秋期)
担当教員	担当教員
(春期)	(秋期)
担当教員	担当教員

半期の授業(片方だけの時間もある)とそれぞれを担当する教員、隣接していることに特段の意味はない。
教員は通年で変らないが、授業はあくまで半期、春と秋で内容が異なる場合も。

授業の性質

- ピンク字 : 2年次必修科目
- 赤字 : 卒業年次必修科目
- 青字 : 選択必修科目(演習、講義、外国語)
- 黒字 : それ以外の選択外国語科目

補足

- この時間割表は、早稲田大学文学部フランス語フランス文学コースに在籍する学部生を主な対象としています。
- 記載されている科目名の多くは簡略化されています。正式名称は講義要項などで確かめてください。
- 各科目の内容については、講義要項やWeb上のシラバス検索で把握してください。
- 登録方法と登録上の注意については、『科目登録マニュアル』をよく読んでください。

3-1.外国語レベルマップ（フランス語）

※科目名の先頭に「★」があるものが1年次必修の基礎外国語科目で、それ以外のものが選択外国語科目です。

		内容分類				
		文法	会話	講読	文化	留学・資格
レベルⅣ		フランス語で表現する5 (会話・作文総合)	フランス語で表現する5 (会話・作文総合)	フランス語を読む5 (高度な読解力の養成)		
		フランス語で表現する10 (会話・作文総合)	フランス語で表現する10 (会話・作文総合)	フランス語を読む10 (高度な読解力の養成)		
				フランス語を読む11 (文学2)		
				フランス語を読む12 (文学2)		
レベルⅢ			フランス語で表現する2 (会話中級) A		フランス文化を知る1 (時事フランス語)	
		フランス語で表現する4 (作文中級)	フランス語で表現する2 (会話中級) B	フランス語を読む1 (文学1)	フランス文化を知る2 (フランスを旅する)	フランス語の資格をめざす2 (中級)
		フランス語で表現する9 (作文中級)	フランス語で表現する7 (会話中級) A	フランス語を読む2 (哲学)	フランス文化を知る3 (映画・映像)	フランス語の資格をめざす4 (中級)
	フランス語力を強化する2 (文法)		フランス語で表現する7 (会話中級) B	フランス語を読む3 (芸術・文化)	フランス文化を知る4 (美術・音楽)	
	フランス語力を強化する4 (文法)			フランス語を読む4 (現代文明)	フランス文化を知る5 (歴史・社会)	
				フランス語を読む6 (文学1)	フランス文化を知る6 (時事フランス語)	
				フランス語を読む7 (哲学)	フランス文化を知る7 (フランスを旅する)	
	フランス語力を強化する5 (語彙)	フランス語力を強化する3 (発音の訓練)		フランス語を読む8 (芸術・文化)	フランス文化を知る8 (映画・映像)	フランス語力を強化する1 (留学準備)
	フランス語で表現する11 (メディア・コミュニケーション)	フランス語力を強化する6 (聞き取りの訓練)		フランス語を読む9 (現代文明)	フランス文化を知る9 (美術・音楽)	フランス語の資格をめざす1 (初級) A
	フランス語で表現する12 (メディア・コミュニケーション)	フランス語で表現する3 (作文初級) A	フランス語で表現する1 (会話初級) A	フランス語を読む10 (絵本・児童文学)	フランス文化を知る10 (歴史・社会)	フランス語の資格をめざす1 (初級) B
レベルⅡ		フランス語で表現する3 (作文初級) B	フランス語で表現する1 (会話初級) B	フランス語を読む13 (絵本・児童文学)	フランス文化を知る11 (ファッション・料理)	フランス語の資格をめざす3 (初級) A
		フランス語で表現する8 (作文初級) A	フランス語で表現する6 (会話初級) A	フランス語を読む14 (絵本・児童文学)	フランス文化を知る12 (ファッション・料理)	フランス語の資格をめざす3 (初級) B
		フランス語で表現する8 (作文初級) B	フランス語で表現する6 (会話初級) B		フランス文化を知る13 (演劇・ミュージカル)	
					フランス文化を知る14 (演劇・ミュージカル)	
					フランス文化を知る15 (BD・マンガ)	
					フランス文化を知る16 (BD・マンガ)	
レベルⅠ	★1年フランス語 イ・ロ・ハ・ニ 第三外国語としてのフランス語A 1 第三外国語としてのフランス語A 2 第三外国語としてのフランス語B 1 第三外国語としてのフランス語B 2 速習フランス語 A 速習フランス語 B					

各レベルの対象と到達目標（目安）

レベルⅣ	学習歴が3年程度の学生が対象
レベルⅢ	学習歴が2年程度の学生が対象
レベルⅡ	学習歴が1年程度の学生が対象
レベルⅠ	初めて学ぶ学生が対象
備考	

早稲田大学文学部
フランス語
フランス文学コース

Actualités

Présentation
du département

Enseignants

Formation

Recherche

Mémoires
de sortieParoles
d'anciens élèves

Variétés

お知らせ

コース説明

教員紹介

授業内容

大学院

卒業論文

卒業生の声

仏文通信

卒業生の声 Vol.27
【大学職員】

堀 由布子

Hori Yuzuko

ほり・ゆうこ
2021年度卒業。
大学職員。

Paroles
d'anciens élèves
卒業生の声

- ・ Vol.27 堀 由布子
(2021年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.26 小鹿 潤
(2021年度卒業)
【放送局】
- ・ Vol.25 太田 未々
(2021年度卒業)
【早稲田大学大学院】
- ・ Vol.24 増淵 萌
(2020年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.23 高崎 晃次
(2020年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.22 松崎 りか
(2020年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.21 佐藤 里衣
(2019年度卒業)
【エンタメ系企業】
- ・ Vol.20 三木 大輝
(2019年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.19 青池 瞳
(2019年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.18 賢賀 由紀
(2018年度卒業)
【映画配給会社】
- ・ Vol.17 廣西 壮飛
(2018年度卒業)
【IT系企業】
- ・ Vol.16 赤沼 智美
(2018年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.15 森 千紗
(2017年度卒業)
【印刷メーカー】
- ・ Vol.14 佐々木 大輔
(2017年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.13 三入 早紀子
(2017年度卒業)
【弁護士秘書】
- ・ Vol.12 久保田 希代香
(2016年度卒業)
【アパレルメーカー】

先生方が親身になって
相談にのってくださるところが
仏文の魅力です。

——なぜ仏文に決めたのですか？

1年生の時に第二外国語でフランス語を履修したら、噂で難しいと聞いていたのとはまったく違ってとても楽しく、自分で発音してみるとフランス語の響きも好きで、これは自分に合っていると直感で思いました。元々ヨーロッパの言語や文化に興味があったので、それならフランスに特化して深く学びたいと思い、仏文に決めました。

——仏文を選んでよかったと思いますか？

仏文ではフランスの様々な分野に触れることができたので、仏文に入って本当に正解でした。フランス語や文学の授業だけでなく、元々好きだった演劇、美術、映画、ファッション、料理などの文化に関する授業も積極的に取ったことで、フランスという国を多方面から学ぶことができました。フランスについてなら、自分の興味のある分野を自由に選択できるのが仏文の良さだと思います。

——フランス語を話せるようになりましたか？

大学で初めてフランス語を始めたのですが、想像以上にフランス語力を伸ばすことができました。私は2019年9月から2020年6月までパリ第7大学に交換留学をしていて、フランス政府が認定しているDELF・DALFという語学試験にも合格することができました。留学前にはB2を、留学後には、ずっと目標にしていたC1を取得できました。今では、フランス人の友達と気軽に会話をしたり、フランス語のニュースも理解できるようになりました。留学や資格試験などのサポートも優しく熱心にしてくださったのが仏文の先生方です。本当に感謝しています。

——卒論は何をテーマに書いたのですか？

卒論のタイトルは『都市と人間の視点から見るエドゥアール・マネの独自性』です。マネは19世紀の画家で、印象派の先駆者とされていますが、そのマネの作品と19世紀当時のフランス社会との関係を分析しました。どのようなテーマにするかずっと迷っていたのですが、留学をしたことで意思が固まりました。パリの多くの美術館で何度も絵画を見た経験や、現地大学での美術史の授業でマネに関するレポートを書き、良い評価を得られたことが決め手になりました。

——卒業後はどんな仕事をするのですか？

早稲田大学の専任職員として働きます。フランス語と英語を使ってグローバルな仕事をしたいというのが就活の軸でした。元々大学という環境が好きでしたし、特に国際化が進んでいる早稲田大学で働けるのはとても嬉しいです。仏文での学びや留学の経験を活かして、海外との連携を強化していくような仕事ができたらいいなと思っています。



——これからコースを選ぶ後輩へのアドバイスは？

フランスの言語や文化に触れることで、英語圏の視点だけでなく、もう1つの新しい視点が得られるのはとても大きいと思います。さらに、教養を身に付けることができ、人間的な成長にもつながります。また、居心地が良く、温かく受け入れてくれるような雰囲気があるのも仏文の魅力です。もし留学をしたいと考えているなら、仏文ほど親身になって相談にのってくれるところはないと思います。

- ・ Vol.11 川村 由莉子
(2016年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.10 藤坂 龍之介
(2016年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.9 高安 理保
(2015年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.8 関口 鴻
(2015年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.7 原 詩織
(2015年度卒業)
【農林水産省】
- ・ Vol.6 瀬尾 周平
(2014年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.5 高木 萌実
(2014年度卒業)
【テレビ局】
- ・ Vol.4 西廣 紀征
(2014年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.3 今関 奏子
(2013年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.2 塩田 壮史
(2013年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.1 堀内 真優子
(2013年度卒業)
【ファッション系企業】



早稲田大学文学部
フランス語
フランス文学コース

Actualités

Présentation
du département

Enseignants

Formation

Recherche

Mémoires
de sortieParoles
d'anciens élèves

Variétés

お知らせ

コース説明

教員紹介

授業内容

大学院

卒業論文

卒業生の声

仏文通信

卒業生の声 Vol.26
【放送局】

小鹿 潤

こしか・じゅん
2021年度卒業。
放送局に就職。

Paroles
d'anciens élèves
卒業生の声

- ・ Vol.27 堀 由布子
(2021年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.26 小鹿 潤
(2021年度卒業)
【放送局】
- ・ Vol.25 太田 未々
(2021年度卒業)
【早稲田大学大学院】
- ・ Vol.24 増淵 萌
(2020年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.23 高崎 晃次
(2020年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.22 松崎 りか
(2020年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.21 佐藤 里衣
(2019年度卒業)
【エンタメ系企業】
- ・ Vol.20 三木 大輝
(2019年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.19 青池 瞳
(2019年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.18 賢賀 由紀
(2018年度卒業)
【映画配給会社】
- ・ Vol.17 廣西 壮飛
(2018年度卒業)
【IT系企業】
- ・ Vol.16 赤沼 智美
(2018年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.15 森 千紗
(2017年度卒業)
【印刷メーカー】
- ・ Vol.14 佐々木 大輔
(2017年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.13 三入 早紀子
(2017年度卒業)
【弁護士秘書】
- ・ Vol.12 久保田 希代香
(2016年度卒業)
【アパレルメーカー】

もし仏文を選んでいなければ
夢だったアナウンサーに
なれなかったかもしれません。

——なぜ仏文に決めたのですか？

中学校の修学旅行で初めて訪れた時に早稲田大学を志望校に決め、将来アナウンサーになるためにTV局に就職するにはやっぱり文学部だろうと入学しました。だからその時点で、仏文を選ぶつもりはまったくありませんでした。第二外国語にフランス語を選んだのも、ちょっとカッコいいかなあ、母がシャンソンをよく聞いていたから、そんな理由だったんですが、授業を受けてみると、先生もクラスの雰囲気もとてもよく、それで仏文に決めたんです。

——仏文を選んでよかったと思いますか？

はい。最初は仏文にきたからには、フランス文学を沢山読まなければならない、フランス語をガッツリやらされるのではないかと不安だったのですが、杞憂に終わりました。それほど文学を読まず、フランス語も日常会話レベルでしか話せない僕でも、ちゃんと卒業できました。僕にとって仏文は、文学や言語を学ぶための場所ではなく、自分のやりたいことを自由にやらせてもらえ、将来メディアで働くためにとても有益な経験ができた場所です。

——仏文ならではの魅力は何だと思いますか？

ユーモアに満ちた先生たちです。専門は違うけれどみんな楽しそうで、それを目の当たりにすることで、学問をする魅力をストレートに感じとることができました。卒業を控えた大事な時期に事故を起こし、将来の仕事のために歯の手術を受けなければならなかった僕に、発表は後でいい、ミュートにして聞いているだけでいい、と親身になって、状況に応じたサポートをしてくれたのも仏文の先生ならではの魅力だと思います。とてもありがたかったです。

——卒論は何をテーマに書いたのですか？

『ツール・ド・フランスと日本』です。その切っ掛けも瀬戸先生がくれました。仏文でスポーツをテーマにアプローチする人が少ないから、やってみればとヒントをくれたんです。え、仏文でスポーツをテーマにしてもいいのかと驚きましたが、将来スポーツ実況をしたいと思っていたので、ツール・ド・フランスの実況を何度も聞き返し、考察したんです。メディアの視点で研究したことは、これからの仕事にも、とても役立つと思っています。

——卒業後はどんな仕事をするのですか？

小学生の頃から夢だったアナウンサーになります。これからメディアで働く僕にとって、仏文で出会った仲間たちはとても刺激的でした。演劇サークルを続けるために何年も留年している人、語学を習得するために徹底的にこだわる人、大学を卒業したのにもう一度学びたいと仏文にやってきた人、それぞれが僕の知らなかった領域を広げてくれただけでなく、おざなりではない道を究める奥の深い生き方に身近に触れることができました。



——これからコースを選ぶ後輩へのアドバイスは？

コースが決まっても、決まっていなくても、仏文については一度は見てみた方がいいと思います。既成の“仏文”というイメージで文学と語学を学ぶコースという先入観はもたない方がいい。早稲田の仏文はまったく違います。間違いなく先生たちは面白いし、フランスに少しでも関わることなら、こんなことをテーマにしているのかと驚くようなことまで自由に研究テーマが選べ、先生はそれを受け入れて熱心にサポートしてくれますよ。

- ・ Vol.11 川村 由莉子
(2016年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.10 藤坂 龍之介
(2016年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.9 高安 理保
(2015年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.8 関口 鴻
(2015年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.7 原 詩織
(2015年度卒業)
【農林水産省】
- ・ Vol.6 瀬尾 周平
(2014年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.5 高木 萌実
(2014年度卒業)
【テレビ局】
- ・ Vol.4 西廣 紀征
(2014年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.3 今関 奏子
(2013年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.2 塩田 壮史
(2013年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.1 堀内 真優子
(2013年度卒業)
【ファッション系企業】



早稲田大学文学部
フランス語
フランス文学コース

Actualités

Présentation
du département

Enseignants

Formation

Recherche

Mémoires
de sortieParoles
d'anciens élèves

Variétés

お知らせ

コース説明

教員紹介

授業内容

大学院

卒業論文

卒業生の声

仏文通信

卒業生の声 Vol.25
【早稲田大学大学院】

太田 未々

Ota Mimi

おおた・みみ
2021年度卒業。
早稲田大学大学院。

Paroles
d'anciens élèves
卒業生の声

- ・ Vol.27 堀 由布子
(2021年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.26 小鹿 潤
(2021年度卒業)
【放送局】
- ・ Vol.25 太田 未々
(2021年度卒業)
【早稲田大学大学院】
- ・ Vol.24 増淵 萌
(2020年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.23 高崎 晃次
(2020年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.22 松崎 りか
(2020年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.21 佐藤 里衣
(2019年度卒業)
【エンタメ系企業】
- ・ Vol.20 三木 大輝
(2019年度卒業)
【県庁】
- ・ Vol.19 青池 瞳
(2019年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.18 賢賀 由紀
(2018年度卒業)
【映画配給会社】
- ・ Vol.17 廣西 壮飛
(2018年度卒業)
【IT系企業】
- ・ Vol.16 赤沼 智美
(2018年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.15 森 千紗
(2017年度卒業)
【印刷メーカー】
- ・ Vol.14 佐々木 大輔
(2017年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.13 三入 早紀子
(2017年度卒業)
【弁護士秘書】
- ・ Vol.12 久保田 希代香
(2016年度卒業)
【アパレルメーカー】

学士入学で仏文に入り直したから
自分が心からやりたいと
思える研究にたどりつけました。

——なぜ仏文に決めたのですか？

実は私、今27歳で、2017年に早稲田大学の政治経済学部の政治経済学科を卒業しているんです。でも就職が決まらず、どうしようかと思った時に、第二外国語でとっていたフランス語への思い入れの深さに気づき、とりあえずフランス語を習得しようと自費で1年間リヨンに語学留学しました。帰国後、早稲田大学に学士入学という制度があると知り、自分でももう一度“学校”という空間に身を置いてみたいと思い、仏文に入学しました。

——仏文での大学生活はどうでしたか？

1回目に経験した大学生活とはまったく違いました。仏文に入ってからすぐにコロナ禍になり、オンライン授業になったことありますが、先生方がとても親切で親身に話をしてくださるので親近感があり、オンラインなのにまったく距離感を感じることなく、本当に楽しい2年間を過ごせました。授業後にサイト上に提出するコメントシートも真剣に書いたし、先生方も丁寧に返事をくださり、より深いコミュニケーションがとれたと思います。

——仏文ならではの魅力は何だと思いますか？

仏文ではフランスにちょっとでも関わっていれば、文学、音楽、思想、論理学、何でも勉強できます。科目として学べたので思わぬところで新たに興味のもてることを発見できました。しかも先生からだけでなく、他の生徒の発表を聞くことで、この人はこんなことに興味があるのかと、知らなかった方向から打撃を食らうことも多く、それによって自分が豊かになっていくという経験は素晴らしく、それができたのは仏文だったからだと思います。

——卒論は何をテーマに書いたのですか？

タイトルは『雑誌・新聞の中のバンド・デシネー19世紀後半から20世紀初頭にかけてー』。フランスの漫画であるバンド・デシネのこの期間に焦点をあてて紹介しているものがなかったので、自分の研究も兼ねて、書き終わった後に自分の参考文献として使えるような卒論を書きたいと思ったんです。雑誌・新聞という紙媒体の支えがなければ、現代のバンド・デシネの姿になっていなかったことを明らかにしたかったし、できたと思っています。

——卒業後はどんな仕事をするのですか？

普通に就職することは叶わないと思っているし、そんなにしたいとも思っていない。できる限り“学校”という空間に身を置いて勉強を続けたいので、早稲田大学の大学院に進みます。バンド・デシネの専門家と自分で名乗れるような知識を身につけたいんです。バンド・デシネは、ジャンルの特性上、文学も美術も思想にも関わりが深いので、全部やっていきたい、そんな手広い研究を可能にしてくれるのが、仏文のこの環境だと思っています。



——これからコースを選ぶ後輩へのアドバイスは？

ちょっとでもフランスに興味があるなら絶対に仏文がいい。でも何にも興味がない、興味が定まらない人こそ、仏文で刺激を受けてみるのをすすめます。文化であれ、思想であれ、フランスという国が放つ光は強く、仏文の和やかな雰囲気の中にもいるだけでも、刺激はすごく得られます。政治経済で経験した大教室で将来の就職のことを考えてガリガリやっていたのとはまったく違う、自由な知的好奇心の赴くままになんでもやれるのが仏文です。

- ・ Vol.11 川村 由莉子
(2016年度卒業)
【出版社】
- ・ Vol.10 藤坂 龍之介
(2016年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.9 高安 理保
(2015年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.8 関口 鴻
(2015年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.7 原 詩織
(2015年度卒業)
【農林水産省】
- ・ Vol.6 瀬尾 周平
(2014年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.5 高木 萌実
(2014年度卒業)
【テレビ局】
- ・ Vol.4 西廣 紀征
(2014年度卒業)
【大学職員】
- ・ Vol.3 今関 奏子
(2013年度卒業)
【大学院修士】
- ・ Vol.2 塩田 壮史
(2013年度卒業)
【広告代理店】
- ・ Vol.1 堀内 真優子
(2013年度卒業)
【ファッション系企業】

